

令和4年度
第2期中央区地域福祉活動計画推進評価報告書



令和4年11月
社会福祉法人 中央区社会福祉協議会

1 第2期中央区地域福祉活動計画とは

地域福祉活動計画は、誰もがいつまでも住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、地域に住む人や地域に関わる人々が主体となって活動を行うための全員参加型計画です。第2期計画は平成28年3月に策定された第1期計画の基本的な方向性を引き継ぎつつ、新たな課題を含めた区民や地域の課題を幅広く取り上げ、さまざまな主体がその課題にどのように関わり解決していくかをまとめたものです。

《計画の柱》

基本理念	
さまざまなつながりと支えあいをはぐくむ ～一人一人が自分らしく、安心して暮らせるまちをめざして～	
目指す地域の姿	活動目標
1 多様なつながりのある地域	1 身近な地域での交流から始めよう
	2 身近な場所に安心して集える場所・気軽に交流できる場所を増やそう
2 みんなが活動に参加しやすい地域	1 地域の活動を知り、気軽に関われるきっかけを増やそう
	2 思いを行動につなげて、継続できるようにしよう
	3 地域でのつながりを生かし、活動を充実させよう
3 「困った」に気づき、支援につなげる地域	1 困りごとを相談できる人や場所を増やそう
	2 悩みや困りごとが支援につながるような幅を広げよう

《計画の全体像》

巻末の～計画の体系～をご参照ください。

《計画期間》 令和3年度から令和8年度まで（6年間）

2 中央区地域福祉活動計画推進評価委員会について

(1) 役割

第2期中央区地域福祉活動計画の進捗状況を評価し、計画の着実な実行と地域福祉の更なる推進を図るため、計画の進行管理、評価、計画の推進に関し必要なことについて意見・提言を行います。

(2) 委員会の構成

《委員名簿》

	氏名	選出区分
委員長	川上 富雄	学識経験者（駒澤大学文学部社会学科社会福祉学専攻教授）
副委員長	松岡 誠一郎	町会・自治会

委員	鈴木 英子	民生・児童委員(京橋)
委員	山崎 勇	民生・児童委員(日本橋)
委員	中西 幸二	民生・児童委員(月島)
委員	岩崎 くみ	福祉施設(高齢)マイホームはるみ
委員	田村 克彦	福祉施設(障害)レインボーハウス明石
委員	當山 貴子	福祉施設(高齢)月島おとしより相談センター
委員	相澤 俊一	福祉団体等(中央区障害者団体連絡協議会)
委員	村田 美緒	福祉施設(子ども)みちてる保育園
委員	杉原 志保	支援団体(協働ステーション中央)
委員	松本 純一	区内事業者(清水建設株式会社)
委員	金井 良	ボランティア・福祉サービス関係者
委員	下川 由美子	ボランティア・福祉サービス関係者
委員	箕輪 慎	ボランティア・福祉サービス関係者
委員	佐藤 栄司	ボランティア・福祉サービス関係者
委員	田中 智彦	行政(中央区役所福祉保健部長)
委員	古田島 幹雄	中央区社会福祉協議会副会長兼常務理事

(3) 任期

令和3年7月1日～令和5年3月31日

(4) 委員会の開催

日時：令和4年7月22日(金)午後3時から午後4時30分

場所：銀座プロッサム 7階マーガレット

※第2期中央区地域福祉活動計画に掲げる「目指す地域の姿」の実現に向けた令和3年度における「連携する社協の取り組み」の評価、及び推進評価委員による活動目標ごとの質的評価について報告し、委員からそれぞれの取り組みへの評価や次年度に向けた意見・提案をいただきました。

3 実施方法

- ①社協内において、計画に掲げる「目指す地域の姿」の実現に向けた取り組み状況について、「連携する社協の取り組み」(1)～(13)及び関連する社協 PT ごとに社協内部評価を行うとともに、今後の方向性、次年度以降における取り組みについて横討しました。
- ②推進評価委員を対象に実施した質的評価アンケートの結果に基づき、「目指す地域の姿」の実現に向けた活動目標の進捗について評価を行い、推進評価委員会では今後の取り組みや方向性について委員の皆さんからご意見をいただきました。
- ③推進評価委員会における委員の皆さんからのご意見等を踏まえて、「次年度における方向性と取り組み等」に再検討を加えました。

1. 「連携する社協の取り組み」に対する社協内部評価

取組（1）広報・啓発・情報発信

取組の内容	<p>広報紙「中央区社協だより」、ボランティア情報紙「キャッチボール」、「中央区サロンマップ」等の紙媒体、社協ホームページ、フェイスブック等の電子媒体など多様な媒体を活用した情報発信</p>
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な年齢層や価値観を持った区民の興味・関心を引く内容とするとともに、高齢者や障害者などの情報弱者にも寄り添った情報提供ができるよう、さまざまな媒体の活用や提供方法の工夫を図っていきます。 ・コロナ禍を踏まえ、情報の即時性や拡散性の高いフェイスブック等SNSによる情報提供の拡充を図るとともに、高齢者など電子メディアになじみのない方にも必要な情報がしっかりと届くよう、紙媒体についても紙面づくりや配布方法等を考慮していきます。 ・「中央ぷらねっと」（中央区社会貢献企業連絡会）や「社会福祉法人連絡会」による地域貢献活動の紹介等、企業や事業所などの興味・関心を引くような情報提供を行います。 ・高層マンション等必要な情報が届きにくい居住形態の方、特に孤立が懸念される高齢者等に、確実に情報が届けられるように民生・児童委員と連携し、取り組みを進めていきます。 ・身近な地域で行われているさまざまな地域活動の把握に努め、参加のきっかけとなるよう多様な媒体を活用し情報発信を行う。情報の発信にあたっては、活動内容の紹介等も行い、活動者のモチベーションの向上につなげられるよう活動団体の広報にも力を入れる。
関連する事業	<p>広報紙「中央区社協だより」（かけはし中央）の発行 ホームページ・フェイスブック等の運営 「中央社協のまちひとサイト」ブログの運営 ボランティア情報紙「キャッチボール」等の発行 「中央区サロンマップ」の発行</p>

「目指す地域の姿」に向けた取り組みの評価（令和3年度における取り組み状況）

1 多様なつながりのある地域

評価	順調 概ね順調 どちらとも言えない あまり順調でない 順調でない
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページのリニューアルに伴うサロンマップの利便性の向上など、様々な広報媒体による積極的かつきめ細かな情報発信により、地域活動への参加を促進する取り組みを拡充することができた。 ・「勝どきテイルム」の「おとなりNEWS」に加え、新たな交流の場である「はまる一む」については広報紙「PLACE」を毎月発行するなど活発なPRを行い、地域の拠点として定着しつつある。 ・コロナ禍の新たな交流ツールであるZOOMによる交流の普及を図るとともに、情報弱者向けのスマホ講座や相談会を開催した。 ・京橋地域では、レインボーハウス明石の喫茶「アラジン」や聖路加国際大学の「るかなび」との連携による積極的な広報などを行ったが、新たな居場所づくりには至らなかった。

2 みんなが活動に参加しやすい地域

評価	順調 概ね順調 どちらとも言えない あまり順調でない 順調でない
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動情報や団体情報を「キャッチボール」や「まちひとサイト」で積極的かつきめ細かく発信した。 ・サロンマップの拡充に伴い、紙媒体だけでなく、ウェブ上からも迅速に交流や居場所に関する情報が得られるようホームページのリニューアルやSNSでの発信を行った。 ・コロナ禍での区民同士の仲間づくりや企業同士の連携に関しては具体的な情報発信ができなかった。

●次年度における方向性と取り組み等

- ・目的別の広報紙など対象に、よりきめ細かな情報発信を行う。
- ・情報が届いていない方々の分析などにより、さらに多様な媒体を活用したきめ細かな情報発信を積極的に推進する。
- ・閲覧者数やアクセス件数の把握により、効果を可視化できるようにする。

取組（2）地域福祉活動へのきっかけづくり

取組の内容	「ボランティア入門講座」「場づくり入門講座」「健康福祉まつり」等、区民が地域福祉活動に参加するきっかけとなるような多様な取り組み
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・各種講座については、タイムリーなテーマを取り上げるとともに、広報や講座・体験内容の充実を図り、さらに多くの方々に参加してもらい、地域福祉活動やボランティア活動への関心を高めていきます。 ・受講者同士の交流や意見交換を行う場や機会を増やし、受講者の意識向上やネットワーク化を推進します。 ・近年日本各地で発生している豪雨災害などを受けて、災害ボランティアへの関心が高まっていることから、「災害ボランティア関連講座」や「災害ボランティアセンター運営訓練」などの内容充実を図ります。 ・コロナ禍を踏まえ、新しい生活様式に応じた講座やイベント等のあり方について検討していきます。 ・区や関係団体の各種講座などとも役割分担と連携を図りながら、区民が自分に合った形で安心して地域活動に参加できるきっかけづくりを拡充していきます。 ・「健康福祉まつり」については、福祉活動やボランティア活動について多くの区民、団体、グループ等が理解を深めるきっかけとしての本来の目的・趣旨が十分達成されているか、実行委員会や区とともに継続的に検証します。 ・子どもの頃から福祉活動やボランティア活動への関心を高めるために、「イナっこ教室」や「福祉体験講座」等において体験内容の充実を図ります。
関連する事業	ボランティア入門講座 福祉体験講座 夏休み福祉・ボランティア体験「イナっこ教室」 場づくり入門講座 ささえあいサポーター養成講座 グリーフサポート入門講座

「目指す地域の姿」に向けた取り組みの評価（令和3年度における取り組み状況）

1 多様なつながりのある地域

評価	順調 概ね順調 どちらとも言えない あまり順調でない 順調でない
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、オンラインを活用した新しいスタイルでの講座等を通じて交流を図ることができた。 ・ささえあいサポーターのフォローアップである「ジモト交流会」を新たに立ち上げ、地域のつながり強化を図った。 ・「健康福祉まつり」についてはコロナ禍で規模縮小を図りながらではあったが、2年ぶりに開催でき、新たなつながりづくりに寄与することができた。 ・夏休み福祉ボランティア体験「イナっこ教室」ではコロナ禍でも実施できるメニューを新設し、2年ぶりに実施することができた。 ・災害ボランティアセンター運営訓練は、さらに実践的な内容で実施するとともに新たな団体からの参加者があった。

2 みんなが活動に参加しやすい地域

評価	順調 概ね順調 どちらとも言えない あまり順調でない 順調でない
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・各種講座のオンライン化や地域ごとの分散開催、リモートによるボランティア活動メニューの提案等コロナ禍を応じた柔軟な取り組みを行うことができた。 ・コロナ禍でつながり方の多様化は進んだが、新たなボランティアを増やすための働きかけは十分にできなかった。

●次年度における方向性と取り組み等

<ul style="list-style-type: none"> ・ウィズコロナ、アフターコロナに向けて各事業のあり方を検討するとともに、その時々状況にあわせて臨機応変に対応できるようにしていく。 ・コロナ禍の影響を大きく受ける取組分野ではあるが、オンラインの活用や入門講座等の実施、また感染防止に注力しながら健康福祉まつりや各講座を可能な限り実施していくことにより「きっかけづくり」を促進していく。 ・京橋地域における地域活動拠点づくりに取り組むとともに、「はまる一む」の地域活動拠点としての活性化を図っていく。

取組（3）多世代交流とアウトリーチ相談支援

取組の内容	「おとなりカフェ・ちょこっと相談会」の実施
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが気軽に身近なカフェに参加できたり、コーディネーターに相談できるようにするため、区との連携により月島地域の「勝どきダイルーム」のほか、京橋地域と日本橋地域でも「おとなりカフェ・ちょこっと相談会」が定期開催できるようにしていきます。 ・区民ボランティア等の参画とコーディネーターとの役割分担により、区民の多様なニーズに対応できるようにしていきます。 ・区民が身近な地域でさまざまな相談を気軽に受けられる包括的な相談支援の拠点としての機能を充実させます。
関連する事業	おとなりカフェ・ちょこっと相談会

「目指す地域の姿」に向けた取り組みの評価（令和3年度における取り組み状況）

1 多様なつながりのある地域

評価	順調 概ね順調 どちらとも言えない あまり順調でない 順調でない
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・日本橋地域で新たな拠点「はまる一む」を開設し、身近な地域で相談・交流できる仕組みづくりを推進した。 ・「勝どきテイルム」では顔なじみの方同士の交流だけでなく、おとなりカフェへの参加を通じた新しい交流が進み、活動団体同士をつなぐネットワークも立ち上がった。

3 「困った」に気づき、支援につなげる地域

評価	順調 概ね順調 どちらとも言えない あまり順調でない 順調でない
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・日本橋地域の「はまる一む」、京橋地域の「るかなび」「アラジン」等相談できる場所が増えた。 ・活動拠点等を通して気軽に相談が寄せられるようになったが、地域住民や多機関との連携による具体的なネットワークづくりについては至らなかった。

●次年度における方向性と取り組み等

- ・地域での顔の見える関係づくりを意識し、世代や障害種別を超えて住民同士が交流できる取り組みについて検討を進める。
- ・地域住民が本取り組みでの役割を実感できることを目指し、ウィズコロナでの参画の仕方について検討を進める。
- ・ひきこもりがちな方へのアプローチや、見えないニーズが見える化する新たな取り組みについて検討を進める。
- ・「防災」をテーマに地域課題を掘り起こす取り組みについて検討を進める。

取組（4）区民同士の交流と見守り

取組の内容	「ふれあい福祉委員会」「いきいき地域サロン」等の区民が主体的に行うサロン活動等の推進
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な場所で区民が気軽に集まり、定期的に交流する見守りとふれあいの機会を増やすため、既存のサロン活動の支援だけでなく、地域におけるさまざまな主体による多様な活動の支援を充実していきます。 ・「高齢者通いの場」「認知症カフェ」などの区が支援するサロン活動も含め、団体同士や活動メンバー同士の交流や意見交換の場を拡充し、区内のサロン活動のネットワーク化を促進していきます。 ・「ウィズ・コロナ」「アフター・コロナ」を見据えたサロン活動のあり方について検討を進めていきます。
関連する事業	ふれあい福祉委員会 いきいき地域サロン ほがらかサロン

「目指す地域の姿」に向けた取り組みの評価（令和3年度における取り組み状況）

1 多様なつながりのある地域

評価	順調 概ね順調 どちらとも言えない あまり順調でない 順調でない
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・「勝どきダイルーム」や「はまる一む」の活用により、多様なテーマを持つ団体が身近な地域で活動や交流を始めやすくなった。 ・団体同士の横のつながりを担保する懇談会等の取り組みを実施し、今後のコロナ禍での活動の進め方について意見交換を行うことができた。 ・「ふれあい福祉委員会」は担い手の高齢化などにより、活動が終了となる団体があるなど、コロナ禍での新たな委員会の立ち上げには至らなかった。

2 みんなが活動に参加しやすい地域

評価	順調 概ね順調 どちらとも言えない あまり順調でない 順調でない
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・代表者会等を通じて団体間・メンバー間の相互交流を図り、コロナ禍で活動休止を余儀なくされた団体のモチベーション維持に努めたほか、各団体の活動への思いを再確認することができた。

●次年度における方向性と取り組み等

- ・コロナ禍でも本取組に関連する事業に対する地域住民からの問い合わせはあったことから、広報活動の充実を図るなど、担い手や参加者を増やしていく。
- ・本取組に関連する事業間の相互交流を図ることで、区民同士の交流のきっかけを増やす仕組みを検討する。
- ・担い手の高齢化等を踏まえた活性化について柔軟に検討していく。

取組（5）居場所・地域活動拠点支援

取組の内容	「勝どきダイルーム」などにおける居場所づくりの支援
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・「勝どきダイルーム」では、さらに区民主体の多様なサロン活動が展開されるよう支援します。また、サロン活動を運営する団体や活動メンバー同士の連携を深め、いつでも誰もが気軽に立ち寄ることのできる「居場所づくり」を行っていきます。 ・多世代交流スペース「はまる一む」（令和3年度開設予定）については、区民からの意見を伺いながら、「勝どきダイルーム」と同様に区民主体の多様な地域活動が開催されるよう整備するとともに、社協による常設のアウトリーチ相談拠点としての活用を検討します。 ・「さわやかワーク中央」が障害のある利用者にとって安心、安全な常設の居場所になっている点に着目し、地域の居場所としての活用の可能性についても幅広く検討していきます。 ・区民が身近で、気軽に、安心して集える場所として活用できる地域活動の拠点を増やすとともに、既存の拠点では利用団体同士の交流を図り、活動の活性化やモチベーションの維持・向上に資する取り組みを行う。
関連する事業	「勝どきダイルーム」、「はまる一む」の活用 さわやかワーク中央の活用

「目指す地域の姿」に向けた取り組みの評価（令和3年度における取り組み状況）

1 多様なつながりのある地域

評価	順調 概ね順調 どちらとも言えない あまり順調でない 順調でない
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にも関わらず「勝どきデイルーム」での地域活動が大幅に増え、かつ多様化し、身近な地域で様々な方が交流を始める機会が増えた。 ・日本橋浜町に令和3年6月に「はまる一む」を開設し、交流の場を増やすことができた。 ・「さわやかワーク中央」を中央区の地域活動支援拠点として登録し、体験の機会・場として区内関係事業所との連携強化を図った。

●次年度における方向性と取り組み等

<ul style="list-style-type: none"> ・活動拠点となる場所の新規開設に向けて、既存の区施設を含めた場所の開拓を進めていく。併せて「場所」ととらわれない居場所（活動）の在り方について検討を進める。 ・「さわやかワーク中央」6階食堂を活用し、「ちょこっと相談会」を年1～2回程度実施するとともに、地域生活支援拠点としての活用を図っていく。

取組（6）寄付・募金等による地域づくりの推進

取組の内容	地域の活性化や地域づくり支援のための「共同募金」（歳末たすけあい運動、赤い羽根共同募金）その他寄付活動
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・寄せられた募金の助成・配分にあたっては、透明性と公平性の確保に努めるとともに、社協のネットワークを生かして新しい助成先・配分先の掘り起こしを進め、地域の活性化につなげます。 ・共同募金は町会・自治会、団体などを通じた最も身近な地域福祉活動であることから、さらに地域との協力関係を深めて取り組みやすい活動とするとともに、広く企業などへも働きかけていきます。 ・寄付受領にあたっては、寄付者・受贈者双方の満足度向上と地域福祉への貢献度を高めるため、広報の仕方やマッチングについて工夫していきます。
関連する事業	歳末たすけあい運動 赤い羽根共同募金 寄付受領 会員制度

「目指す地域の姿」に向けた取り組みの評価（令和3年度における取り組み状況）

2 みんなが活動に参加しやすい地域

評価	順調 概ね順調 どちらとも言えない あまり順調でない 順調でない
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・会員募集について郵便局広告封筒を作成し、新たな方法で周知を行った。 ・歳末たすけあい運動ではコロナ禍で街頭募金を実施できなかったが、健康福祉まつりでの募金は過去最高の募金額になったほか、募金活動に協力していただけの店舗も増やすことができた。

●次年度における方向性と取り組み等

- ・コロナ禍においても行える募金活動や広報の仕方についての検討を続け、募金額の増加に努める。
- ・募金活動の意義や目的についての啓発に取り組む。
- ・周知方法を工夫し、会員数や寄付数の増加につなげるとともに、寄付者の啓発や掘り起こしにつながるような取り組みについて検討していく。

取組（7）支えあいを基盤とする地域づくり

取組の内容	「地域支えあいづくり協議体（第1層）」 「支えあいのまちづくり協議体（第2層）」の運営
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・区と連携しながら、地域共生社会の実現に向けた「支えあいの仕組みづくり」や「地域のつながりづくり」について、世代や障害の有無等を超えて多様な主体が話し合う協議体を目指していきます。 ・マンション等集合住宅を一つの生活圏域と捉え、特性や課題について幅広い視点からアセスメントを行うとともに、具体的な取り組みの立案や課題解決に向けた連携・協働のあり方について検討していきます。 ・協議体で協議された内容等について、区民に情報提供するなどして周知を図り、広く区民からも意見を聴取する仕組みづくりを進めていきます
関連する事業	地域支えあいづくり協議体（第1層） 支えあいのまちづくり協議体（第2層）

「目指す地域の姿」に向けた取り組みの評価（令和3年度における取り組み状況）

2 みんなが活動に参加しやすい地域

評価	順調 <u>概ね順調</u> どちらとも言えない あまり順調でない 順調でない
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・京橋地域では情報紙「きらきらいふ京橋人」の発行し、地域活動についての情報発信に取り組んだ。 ・日本橋地域では「はまる一む」を活用し、一人暮らし高齢者の交流の場である「シニアサロン」を開設した。 ・月島地域では高齢者にスマートフォンに親しんでもらうためのイベント「スマサポまつり」の開催等、参加メンバーの思いを形にする取り組みを進めることができた。 ・協議体参加メンバーのつながりを活かして具体的な地域活動に取り組むことで、活動の幅を広げることができた。

3 「困った」に気づき、支援につなげる地域

評価	順調 <u>概ね順調</u> どちらとも言えない あまり順調でない 順調でない
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・重層的支援体制整備事業の包括的な相談支援の体制づくりなどに向けて区との協議を進めている。 ・京橋・日本橋・月島の3地域で「地域福祉ワークショップ」を区と共催し、地域住民が主体的に地域の課題解決に取り組むための地域づくりを推進した。

●次年度における方向性と取り組み等

- ・第1層協議体と第2層協議体の連携を深め、地域課題の解決に向けた社会資源の創出と具体的な取り組みの推進を図る。
- ・様々な地域住民との意見交換の機会を設け、協議体での取り組みの成果を共有するとともに、より身近な地域で地域課題について考えるきっかけを増やしていく。
- ・地域ごとにボランティアが参加できる具体的な取り組みを検討していく。

取組（８）区民同士の支えあい・助けあい

取組の内容	「虹のサービス」「ファミリー・サポート・センター」など地域で助けあう活動の推進
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・提供会員等担い手側の不足状況を解消するため、多様な機会や情報媒体を活用し、多角的な広報活動を実施していきます。 ・コロナ禍を踏まえ、活動中における感染予防対策や緊急時対応についてのマニュアル等を整備します。 ・安全対策等の研修の充実を図ります。
関連する事業	虹のサービス ファミリー・サポート・センター

「目指す地域の姿」に向けた取り組みの評価（令和３年度における取り組み状況）

２ みんなが活動に参加しやすい地域

評価	順調 概ね順調 どちらとも言えない あまり順調でない 順調でない
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・「勝どきデイルーム」「はまる一む」等地域の拠点や配達地域指定郵便物（かもめーる、年賀状）を活用し、区民が身近な地域で情報を得られる取り組みを行った。 ・会報紙等で実際に活動する会員の声を紹介し、会員のモチベーションの維持・向上を図った

●次年度における方向性と取り組み等

<ul style="list-style-type: none"> ・両事業の広報を合わせて行うなどさらに工夫することで、より多くの方が活動に関われるきっかけづくりを進める。 ・コロナ禍においても安全に活動が行えるよう、事業間での情報共有を図るとともにマニュアルの整備を行い、合同での研修会など幅広く情報交換ができる機会の提供を検討していく。

取組（９）多様な活動主体のつながりとネットワークづくり

取組の内容	ボランティア活動の支援およびボランティア・地域貢献活動等に取り組む多様な主体による交流・連携の促進
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きボランティアが活動しやすいような環境の整備に努めるほか、ボランティア同士の交流・連携を促進し、ネットワーク化を図ることで、新しい活動の創出や潜在的な担い手の掘り起こし、既存の活動の充実等につなげていきます。 ・企業や在勤者にとって無理のない範囲で活動でき、地域に関心を持ってもらえるような取り組みの提案を行っていきます。
関連する事業	ボランティア活動の支援 企業による地域貢献活動の促進 中央区社会福祉法人連絡会

「目指す地域の姿」に向けた取り組みの評価（令和3年度における取り組み状況）

2 みんなが活動に参加しやすい地域

評価	順調 概ね順調 どちらとも言えない あまり順調でない 順調でない
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人連絡会で新たに「おたよりでつなぐ“まごころ”プロジェクト」を実施し、コロナ禍にあってつながりづくりや多世代交流を進めることができた。 ・オンラインやリモートを活用したボランティア活動により、活動の幅が広がった。 ・中央区社協だよりの11月号を「事業所特集号」とするとともに、新聞折込の部数を増やし、新たに区内企業への働きかけを行った。

●次年度における方向性と取り組み等

<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア交流会やちゅうおうボラネット交流サロンといった交流・情報交換の場を支援していく。 ・ふれあい福祉委員会やいきいき地域サロンの代表者会、「ジモト交流会」や勝どきダイルーム利用団体交流会などの横断的なネットワークづくりを検討していく。 ・企業や在勤者向けの効果的な取り組みについて検討していく。 ・社会福祉法人連絡会ではコロナ禍に合わせた地域公益活動のあり方を検討していく。 ・高齢者のスマホやITへの興味・関心の高まりに応じた取り組みについて検討していく。

取組（10）地域の課題解決に向けた取り組みを通じた地域づくり

取組の内容	「地域福祉コーディネーター（CSW）」「生活支援コーディネーター」による地域づくり支援
取組の方向性	地域の課題解決に向けた取り組みを通じて、新しいつながりづくりや社会資源の創出、埋もれている既存資源の掘り起こし等を図り、生活圏域ごとに地域課題を解決する体制を整備していきます。
関連する事業	地域福祉コーディネーター（CSW：コミュニティ・ソーシャル・ワーカー） 生活支援コーディネーター

「目指す地域の姿」に向けた取り組みの評価（令和3年度における取り組み状況）

2 みんなが活動に参加しやすい地域

評価	順調 概ね順調 どちらとも言えない あまり順調でない 順調でない
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により、地域住民の思いを行動につなげるために必要な場所の確保に加えて地域への具体的な働きかけが進まなかった。 ・既存の地域活動団体や埋もれている地域活動・社会資源の掘り起こしが十分にできなかった。

●次年度における方向性と取り組み等

<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援も含めた地域課題の解決に向けた取り組みを通して、社会資源の発掘・開拓に取り組む。 ・地域づくりの主体となる地域住民との意見交換を通してつながり（信頼関係）をつくりつつ、地域課題を解決する体制づくりを協働して進められるよう多様な主体が参加するネットワークづくりに取り組む。

取組（11）就労を通じた社会参加支援

取組の内容	「シルバーワーク中央」「中央区障害者就労支援センター」における高齢者・障害者の就労支援
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢や障害種別等に関わらず、就労を通じた社会参加による自己実現に向けて、社協の強みを生かした地域資源の活用や多様なネットワークとの柔軟な連携・協働を進めていきます。 ・さまざまな就労のニーズに対応できるようにその場に即した手法を用い、サポート体制を拡充していきます。
関連する事業	シルバーワーク中央 中央区障害者就労支援センター

「目指す地域の姿」に向けた取り組みの評価（令和3年度における取り組み状況）

3 「困った」に気づき、支援につなげる地域

評価	順調 概ね順調 どちらとも言えない あまり順調でない 順調でない
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・就労に限らず、生活上の悩みや働き方についても相談に応じ、必要な支援やその方に合った活動の紹介を行った。 ・窓口対応だけでなく、電話や出張等その方に応じた多様な相談対応を行ったほか、「ちょこっと相談会」などのセンター以外の相談窓口の紹介も行った。 ・就労支援センターは中央区の地域活動拠点として登録し、緊急時の受け入れ対応等の相談機能を担った。

●次年度における方向性と取り組み等

<ul style="list-style-type: none"> ・求職者、事業所双方に丁寧な聞き取りを行い、双方が満足のいく就業を目指すとともに、生活相談にも応じ、必要な方には社協事業等その方に合った多様な社会参加プログラムを提案していく。 ・就職した後も安心して働き続けられるよう、訪問、面談、電話等様々なツールを活用して安定した就労を支援していく。

取組（12）制度の狭間や複合的な課題へのアプローチ

取組の内容	「地域福祉コーディネーター（CSW）」「生活支援コーディネーター」による個人・地域へのアウトリーチ支援
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・制度の狭間にある個別課題（8050問題、ダブルケア、ゴミ屋敷問題等）や複合的な課題の解決にあたり、区民や行政をはじめさまざまな関係機関・団体と連携・協働することにより、個別支援から地域支援へ、さらにその先にある地域の課題解決力向上へと輪を広げていきます。 ・困りごとや孤立状態が潜在化しやすい高層マンション等の居住者に向けたアウトリーチ支援を進めるため、民生・児童委員などと連携し、アプローチの方法や新しい連携先とのつながりづくり等を工夫していきます。
関連する事業	地域福祉コーディネーター（CSW：コミュニティ・ソーシャル・ワーカー） 生活支援コーディネーター

「目指す地域の姿」に向けた取り組みの評価（令和3年度における取り組み状況）

3 「困った」に気づき、支援につなげる地域

評価	順調 概ね順調 どちらとも言えない あまり順調でない 順調でない
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・区との共催による「地域福祉ワークショップ」では企画の段階から参画するなど行政や民生委員、多機関との連携を推進し、制度の狭間や複合的な課題の解決に積極的に取り組んだ。 ・地域住民や多機関との協働によるネットワークづくりが具体的には進まなかった。 ・コロナ禍に伴う生活福祉資金特例貸付の利用者に対し、生活全般の困り事に関する個別支援を適宜行ったが、個人の困り事を地域で共有し、課題解決に取り組む仕組みづくりには至らなかった。

●次年度における方向性と取り組み等

- ・個別課題を地域課題として広げていく（我が事としてとらえる）ことを目標に、そこに至る過程で必要な取り組みを検討していく。
- ・特例貸付の償還開始に伴う相談を通して、困り事や潜在的な福祉ニーズを把握し、必要なサービスや関係機関につなぐための体制づくりを進めていく。
- ・個別課題の解決に多様な地域住民を巻き込む仕組みづくりについて検討を進めていく。

取組（13）高齢者・障害者等の権利擁護

取組の内容	成年後見支援センター「すてっぷ中央」による成年後見制度の利用促進と権利擁護機能の充実・強化
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・本区における成年後見制度利用促進の「中核機関」として、制度理解向上のための普及・啓発活動や相談支援体制の強化につながる地域連携ネットワークの構築、社会貢献型後見人の養成等による担い手の確保等の取り組みを進めていきます。 ・社会貢献型後見人養成講座の修了者による権利擁護支援事業の生活支援員としての活動を充実させることにより、後見人候補者としての資質向上を図ります。
関連する事業	成年後見支援事業 権利擁護支援事業

「目指す地域の姿」に向けた取り組みの評価（令和3年度における取り組み状況）

3 「困った」に気づき、支援につなげる地域

評価	順調 概ね順調 どちらとも言えない あまり順調でない 順調でない
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・港区と合同で後見活動メンバーのフォローアップ研修を実施し、登録生活支援員としてのスキルアップと活動の充実を図った。 ・成年後見制度の利用に関する個別相談に応じる「出張ミニ相談会」を開催し、区民が身近な場所で相談できる機会を提供した。 ・権利擁護が必要な方を早期に発見して適切な支援につなげる体制を整えるため、「権利擁護支援地域関係者ネットワーク連絡会」を創設した。

●次年度における方向性と取り組み等

- ・引き続き、登録生活支援員が切磋琢磨できる研修会を企画・実施していく。
- ・活動の中で抱える悩みや疑問に対し適切にサポートすることで登録生活支援員のさらなる資質の向上を図る。
- ・権利擁護支援地域関係者ネットワーク連絡会では、高齢者や障害者に関わりのある様々な地域の関係者や専門職団体の参加を促し、顔の見える関係を強化する。

「連携する社協の取り組み」関連プロジェクトチーム

(1) 広報PT

PTのミッション・方向性	<p>～さまざまな「伝える」をはぐくむ～</p> <p>①いろいろな人に伝える。 ②効果的に伝える。 ③お互いに伝える。</p>
ミッション達成に向けた具体的な取り組み内容	<p>①新しい広報媒体の活用について検討したり、情報が届きにくい人に向けた取り組みをすすめます。</p> <p>②現在行っている広報活動の効果を検証し、効果的な情報発信方法について、災害時における対応も含めた検討を行うほか、職員研修等を通じた広報スキルの向上に努めます。</p> <p>③地域で発信されているさまざまな情報とのやりとりを通じ、地域の情報発信力・受信力を高め、地域の「伝える」をお手伝いします。</p>

「目指す地域の姿」に向けた取り組みの評価（令和3年度における取り組み状況）

1 多様なつながりのある地域

評価	順調 概ね順調 どちらとも言えない あまり順調でない 順調でない
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・交流のきっかけとなる手段を増やすために、キャラクターグッズの作成について検討を行った。 ・ホームページのリニューアルによるサロンマップの利便性向上と、紙媒体のサロンマップの積極的な配布を通して、多様なサロンでの住民同士の交流を促進した。

2 みんなが活動に参加しやすい地域

評価	順調 概ね順調 どちらとも言えない あまり順調でない 順調でない
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ上のイベントカレンダーの活用により、即時的に各事業の様子がわかるようになった。 ・「社協だより」に企業特集や地域活動団体のインタビュー記事を掲載することにより、様々な立場からの地域のつながりを発信できた。

●次年度における方向性と取り組み等

- ・情報が届かない方への周知方法や、職員と地域の方それぞれの発信力向上のための取り組みを検討する。
- ・社協だよりの配布方法や配布先の見直し、ホームページ・フェイスブック閲覧数や閲覧者の検証を行う。
- ・即時性や親しみやすさを重視した受け手側に伝わりやすい広報のあり方を検討する。

(2) アウトリーチ・ニーズキャッチPT

PTのミッション・方向性	<p>ミッション： 社協職員が一丸となって、地域福祉活動計画で掲げる目指す地域の姿を実現するための、連携の仕組みづくり</p> <p>方向性： <ul style="list-style-type: none"> 各部署の総合相談窓口化の検討（社協のワンストップサービス化） 各部署の専門性を活かして課題解決に取り組む支援体制の構築 職員間の情報共有の仕組みのブラッシュアップ（地域を知るための情報の共有） 社協による支援を“今は”必要としていない地域住民とのつながりづくり（社協を知ってもらうためのアウトリーチ） </p>
ミッション達成に向けた具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 「アウトリーチ」、「ニーズキャッチ」、「包括的支援体制」、「連携」等、関連する用語の考え方の整理（職員間の共通認識を作る） 京橋地域を対象とした地域アセスメントの実施（アウトリーチの実践） 既存の情報共有体制の見直しと再構築 社協内の包括的支援体制づくりに向けた連携体制の具体化 地域を知るための具体的な仕組みづくり（どの部署の職員もアウトリーチする仕組みづくり）

「目指す地域の姿」に向けた取り組みの評価（令和3年度における取り組み状況）

1 多様なつながりのある地域

評価	順調 概ね順調 どちらとも言えない あまり順調でない 順調でない
コメント	<ul style="list-style-type: none"> 地域アセスメントの実施を通して新たな地域活動の拠点となり得る場所や求められる活動についての検討を行った。

3 「困った」に気づき、支援につなげる地域

評価	順調 概ね順調 どちらとも言えない あまり順調でない 順調でない
コメント	<ul style="list-style-type: none"> アウトリーチに関する概念整理を行い、本会職員に求められる姿勢・行動の共通認識を持つことができた。

●次年度における方向性と取り組み等

- PT内で得られた共通認識を社協全体の共通認識として広げるための仕組みを検討していく。
- 社協内における包括的な相談支援体制づくりに向けた検討を行う。
- 身近な場所でアクセスしやすい拠点づくりに向けた検討を引き続き行う。

2. 「目指す地域の姿」の実現に向けた推進評価

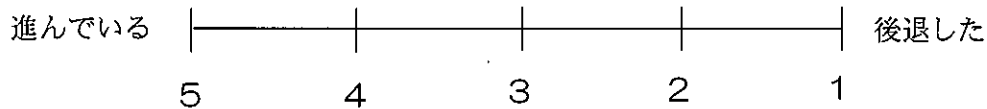
○評価方法について

- ・「連携する社協の取り組み」に関する社協内部評価

3つの「目指す地域の姿」の実現に向けた社協の各取り組みごとの推進状況について、順調：5、概ね順調：4、どちらともいえない：3、あまり順調ではない：2、順調ではない：1 の5段階で社協が自己評価した数値の平均値を示しています。

- ・「活動目標」に関する委員評価

3つの「目指す地域の姿」の実現に向けた活動目標ごとの推進状況について、委員が以下のとおり5段階で評価した数値の平均値を示しています。



※ () は最小値と最大値

目指す地域の姿	1 多様なつながりのある地域
---------	----------------

「連携する社協の取り組み」に関する社協内部評価	
(1) 広報・啓発・情報発信	内部評価 4.1 (4~5)
(2) 地域福祉活動へのきっかけづくり	
(3) 多世代交流とアウトリーチ相談支援	
(4) 区民同士の交流と見守り	
(5) 居場所・地域活動拠点支援	
広報プロジェクトチーム (PT)	
アウトリーチ・ニーズキャッチ・プロジェクトチーム (PT)	
委員会意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページをリニューアルしたことは評価できるが、閲覧者数やアクセス件数等の数字があると効果が可視化され、より評価しやすい。 ・社協から様々なちらしを送ってもらうが、毎回同じようなレイアウトなので、相談内容や解決方法等の具体例が入っているとよい。 ・フェイスブックでいろいろな活動の情報発信を行っているが、文章が多くて知りたい情報に行きつくまでに疲れてしまうので、写真を前面に出してもらいたい。 ・コロナ禍でLINEを使うようになった高齢者が多くなっているため、そこで情報提供できるとよい。 ・コロナ禍の中でつながりの多様性が進んだことは評価されるべき。ただコロナ禍の影響でひきこもりがちの方へのアプローチや取り組みの工夫は今後も必要である。 ・広報で即時性と楽しそうなイメージは大事。硬い文章になると読み手側にも伝わるので配慮してもらいたい。 ・地域の様々な専門職のグループ等と連携・協働を図っていくことも新たな動きを作り出せそうで面白い。

「活動目標」に関する委員評価

活動目標1 身近な地域での交流から始めよう

委員会意見

- ・コロナ禍の終息とともに住民活動が戻ってきていると思う。
- ・コロナ禍も落ち着いてきたこともあり、徐々に地域の祭事が増えてきたように思う。
- ・コロナ禍で地域のイベント・行事が中止や規模縮小となり、住民同士の交流を幅広く持つことができなかった。
- ・交流を作り出すよりも、コロナ禍で今までの関係が中断したり、途中で切れたりすることもあった。
- ・町会活動が活発。新住民も徐々にではあるが活動に誘っている。
- ・未だコロナ禍で、以前は慣習であったり定期的であった地域交流が再開できない状況かと思う。
- ・地域における行事・集会がコロナウイルス感染拡大防止の影響によりことごとく中止となり、人と人との交流が思うように出来なかった。
- ・コロナ禍でまだまだ難しいところがある。
- ・登録団体を通して区民への声かけを実践した。
- ・近隣町会・自治会との接点があることから、声かけは定期的実践した。
- ・オンライン通いの場を実験的に行った。
- ・個人レベルではかなり努力し、行動してきたと自負している。
- ・あまり変化がないのではと感じる。
- ・少しずつ活動再開の様子はみられるが、高齢者施設においてはまだまだ厳しい状況だ。
- ・コロナで祭り、町会行事が中止で交流がきびしい状況が続き、何もできなかった。
- ・令和3年度までは、いまだコロナ禍の影響が残り、町会ははじめイベントは再開出来ずにいた。

委員評価
3.2
(1~4)

活動目標2 身近な場所に安心して集える場所・気軽に交流できる場所を増やそう

委員会意見

- ・月島に続き、日本橋にも拠点が開設され、京橋も開設に向けて調整中とのことで、着実に進んでいると思う。
- ・町会の役員会など定期的に集まる場では色々な話ができるようになった。
- ・コロナ禍で集える場所、交流できる場所が施設の規則等で使用できない、規模の縮小などをせざるを得なくなった。
- ・町会活動が活発。新住民も徐々にではあるが活動に誘っている。
- ・知的障害の方で平日通所されている方々が、日中サービスを受けたあとの“たまり場”的な交流スペースが地域ごとにあると良い。
- ・場所については増加しているように思われる。
- ・コロナ禍でまだまだ難しいところがある。
- ・会議室やサロン、事務所スペース、月1イベント開催などで実践する。
- ・団体の事業を通して機会を提供する。
- ・勝どきおとしより相談センターは使用中止の状態が続いた。
- ・豊海地区の再開発で元住民が集まる場所を用意できていない。
- ・個人レベルではコロナ禍であったが、関心のあるテーマの集いに参加している。
- ・社協地域ささえあい課の積極的な活動で多世代交流の促進が図られている。
- ・コロナ情勢の緩和に伴ってイベント等再開してきているのではないかと思う。
- ・町会としては貼り紙等で案内はしてみたがその効果はどうだったか。
- ・個人的、又は小さなお集まりにはコロナ禍だからこそ声をかけあい、励まし合うように努めた。
- ・場所を増やすことは出来ていない。

委員評価
3.3
(2~5)

目指す地域の姿	2 みんなが活動に参加しやすい地域
---------	-------------------

「連携する社協の取り組み」に関する社協内部評価	
(1) 広報・啓発・情報発信	内部評価 3.9 (3~5)
(2) 地域福祉活動へのきっかけづくり	
(4) 区民同士の交流と見守り	
(6) 寄付・募金等による地域づくりの推進	
(7) 支えあいを基盤とする地域づくり	
(8) 区民同士の支えあい・助けあい	
(9) 多様な活動主体のつながりとネットワークづくり	
(10) 地域の課題解決に向けた取り組みを通じた地域づくり	
広報プロジェクトチーム (PT)	
委員会意見	

「活動目標」に関する委員評価	
活動目標 1 地域の活動を知り、気軽に関われるきっかけを増やそう	委員評価 3.3 (2~4)
委員会意見	

活動目標2 思いを行動につなげて、継続できるようにしよう		
委員会意見	<ul style="list-style-type: none"> ・後退はしていないが、コロナ禍の中で参加継続は難しい状況にあったと思う。コロナ禍が収束してこれからの期待する。 ・4年間で、祭りが中止になってしまったが、どうしても祭礼を続けていくために皆で話し合った。 ・活動を閉ざさないような工夫（対面でなくても情報共有することなど）を考える機会ができたのはよかったと思う。 ・活動への思いを今一度振り返ることもできた。 ・地域の活動自体コロナウイルス感染拡大防止の影響によりことごとく中止となり、地域の活動に関われるきっかけすらなかったような気がする。 ・月刊「キャッチボール」は継続して発行している。 ・コロナ禍でも参加できるボランティア活動が開催されていた。 ・健康福祉まつりの実行委員会は一年間の限定ではあるが、その中でLINEを設定して情報の共有を図っている。 ・オンライン交流がすすみ、これまで参加が難しかった人たちが新たに参加することができている。 ・コロナ禍だからこそ励まし合い、支えあう必要性を皆が感じており、行動した。 ・知り合いの民生委員や生活支援員が地域でお困りの方の相談に応じるなど活躍される様子を伺い、「さまざまにつながりと支えあいをはぐくんで」おられるのだ、と心強い思いである。 	委員評価 3.3 (2~5)
活動目標3 地域のつながりを生かし、活動を充実させよう		
委員会意見	<ul style="list-style-type: none"> ・勝どきデイルームなど、使用を申請する団体も増えており、様々な特技を活かした活動が活発化していると思う。 ・4年ぶりに山王祭が開催され、町内で神輿を引き回しをした。 ・地域のつながりは意識的につくっていかないとダメだと気付いたのも、このコロナ禍だった。社協からその仕組みづくりのヒントをいただけるのか、第2層の「支えあいのまちづくり協議体」につながるのヒントを提案していただけるのかとも期待したが、ほかに頼り期待するのではなく、私たち地域住民が動かなければと思い知らされた。コロナ禍のおかげで地域を見つめ直すことから始まったのでは、と思っている。 ・小学校などとプレゼント交換やビデオレターなど工夫して進めている。 ・地域の活動自体コロナウイルス感染拡大防止の影響によりことごとく中止となり、地域の活動に関われるきっかけすらなかったような気がする。 ・社協が間に入って行った「おたよりでつなく“まごこと”プロジェクト」は、少しの呼びかけで多くの保育園が参加するなど、きっかけがあれば活動したいという思いを感じた。また、なかなかつながることが難しいと思っていたところでも多様なやり方で“つながる”を実現できてきているように思う。 ・口コミや声かけでつながり自体は少しずつ増えてきている印象である。 ・進めてはいるが、充実までは至っていない。 ・「充実」までは感じられない。 ・町会行事も新年会等少し出来たのでつながりは生かされたか。 ・活動は充分とはいえない、停滞している。 ・毎月地域課題解決に取り組む企業や団体を招き、事例共有交流会を活動団体向けに開催した。 	委員評価 3.3 (2~4.5)

目指す地域の姿	3 「困った」に気づき、支援につなげる地域
---------	-----------------------

「連携する社協の取り組み」に関する社協内部評価	
(3) 多世代交流とアウトリーチ相談支援	内部評価 4.0 (3~5)
(7) 支えあいを基盤とする地域づくり	
(11) 就労を通じた社会参加支援	
(12) 制度の狭間や複合的な課題へのアプローチ	
(13) 高齢者・障害者等の権利擁護	
アウトリーチ・ニーズキャッチ・プロジェクトチーム (PT)	
委員会意見	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援はうまくいったが、地域でのネットワークづくりには手をつけられなかったとのことだが、どうしてできなかったのかという課題分析も行ってほしい。 ・「防災」をテーマにアウトリーチの視点で地域にどのような不安があるのかを掘り起こしていければと思う。 ・例えばスマホを使いたい、覚えたい高齢者はけっこういても、どこで教えてくれるのかの情報がないためよくわからないままになってしまう。 ・ちょっと相談会に実際に相談者が来ているのかどうか気がなっているので、結果を教えてもらいたい。 ・身近な場所にアクセスしやすい拠点づくりを引き続き行っていく必要はあるが、そこで出てきたニーズにとどまらず、見えないニーズを見える化することは新たな取り組みの種になるのではないか。

「活動目標」に関する委員評価	
活動目標1 困りごとを相談できる人や場所を増やそう	委員評価 3.4 (2~5)
委員会意見	

活動目標 2 悩みや困りごとが支援につながるような幅を広げよう	
委員会意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 包括的支援体制がうまく機能しているか（狭間ニーズ解決に繋がっているか）、情報発信で何か工夫の取り組みをしているか、あたりを確認してみてもからの評価かなと思う。 ・ 行政でのサポートにつながらない、では、社会福祉協議会はどうか。地域住民の思いを丸ごと受けとめられず、行政のミニ版のような思いをすることも。縦割り、規則ありきではなく、地域住民に寄り添うとはどういうことなのか、社協の職員の方々と一緒に考えていけたらと思う。 ・ 実例で聞いたことが無いので判らないが、実際にはあると思う。 ・ 社協の広報による情報発信（機関紙等）によって少しでも広く多くの人に知ってもらおう努力をしている。 ・ 団体活動の事業の周知を通して実践している。 ・ 支援とまでいかずとも、気軽に気持ちを吐露できる場づくりができればと思うが、「通いの場」のポジティブな雰囲気はそれをやり難くしてしまっている面もある。他の傾聴サークル等とうまく連携できればと思う。 ・ 輪を広げるまでには至っていない。 ・ コロナ禍による制限の緩和に伴って進んでいるのではないか。 ・ おとしより相談センターに同行したり、社会福祉協議会の様々なパンフレットをお渡ししてきた。
	委員評価 3.3 (2~4)

その他、委員自由意見
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社協のアウトリーチとはどういうことでしょうか。よくわかりません。区内3カ所で定期的に「おとなりカフェ・ちょこっと相談会」をやること、相談者が訪れるのを待っていることなのか。CSWが地域に出向いて地域で受け止めたものを、地域の課題として見極め、支え合いや助けあいの仕組みづくりにどうつなげていくかが、一地域住民の目には見えてこない。 ・ 地域の担い手は養成講座や講習会受講生から生まれて、あるいは作り出されてくるのか。よくわかりません。地域での日常生活を送ることで持つ気づき、気にかかること、それを地域に関わる住民が共有し、地域のことをみんなで考えていけるような地域に出来ればと願っています。地域の担い手=活動者でなくてもいいのです。思っていることを口に出してお互い認め合うような関係性が地域にできればいいですね。 ・ ささえあいサポーター養成講座に参加しようと考えている、と区民の方から話を伺いました。少しずつかもしれませんが、知ってもらい、参加してもらえよう活動や広報が継続的に必要なと思いました。 ・ 令和3年度についてはコロナウイルス感染拡大防止の影響により、各地域及び行政による行事が中止または縮小により人と人との交流も減少し、思うような成果を得ることが出来なかったと思います。令和4年度に色々な行事等も復活してきつつあり、今後に期待します。 ・ コロナによる自粛を経て、ウイズコロナの中で、「目指す地域」の実現に向け、様々な活動が再開された一年であったと感じています。今後も環境変化に対応しながら、企業と連携した活動の実施に中央区所在企業として期待いたします。 ・ 指導者の指示を待つ姿勢が多い。そこからは発展は望めない。何かの会合がある時には積極的な発言をすることにより、責任が発生する。その状況を各人が作っていくことが、私たちの目指す地域の姿に近づくことにつながると思います。 ・ コロナも慣れてきて、少しずつ集まりができそうで、何かをできるのではないのでしょうか。 ・ 令和4年度は様々なイベント（盆踊り、子どもまつり（町会主催）etc）が再開され、お誘いすることができるので、声かけし、つながってゆきたいと思います。

第2期中央区地域福祉活動計画の推進状況に関する質的評価アンケート

※計画で掲げた3つの『目指す地域の姿』の実現に向けた『活動目標』について、令和3年度の1年間にどのくらい進んだと感じるか、感覚的にお答えください。

1 多様なつながりのある地域

活動目標1 「身近な地域での交流から始めよう」

※該当すると思われるメモリに○をつけてください（以下も同じです）。

進んでいる |—————|—————|—————|—————| 後退した

自由記述欄（理由など）

活動目標2 「身近な場所に安心して集える場所・気軽に交流できる場所を増やそう」

進んでいる |—————|—————|—————|—————| 後退した

自由記述欄（理由など）

2 みんなが活動しやすい地域

活動目標1「地域の活動を知り、気軽に関われるきっかけを増やそう」

進んでいる |—————|—————|—————|—————| 後退した

自由記述欄（理由など）

活動目標2「思いを行動につなげて、継続できるようにしよう」

進んでいる |—————|—————|—————|—————| 後退した

自由記述欄（理由など）

活動目標3「地域のつながりを生かし、活動を充実させよう」

進んでいる |—————|—————|—————|—————| 後退した

自由記述欄（理由など）

3 「困った」に気づき、支援につなげる地域

活動目標1 「困りごとを相談できる人や場所を増やそう」

進んでいる |—————|—————|—————|—————| 後退した

自由記述欄（理由など）

活動目標2 「悩みや困りごとが支援につながるような輪を広げよう」

進んでいる |—————|—————|—————|—————| 後退した

自由記述欄（理由など）

○自由回答

質問に対する回答以外で、「目指す地域の姿」に近づいたと感じられたエピソードや、本調査に関するご意見等がございましたら、ご自由にお書きください。

ご回答ありがとうございました！

回答日：令和 年 月 日

お名前（ ）

～ 計画の体系～

基本理念



さまざまなたつながりと支えあいをはぐくむ

一人一人が自分らしく、安心して暮らせるまちを目指して

目指す地域の姿

活動目標

取り組み（例）

社協に求められる役割

連携する 社会福祉協議会の取組

●個人で… ★地域で… ■企業・団体で…

